

# 技術士だより

(社) 日本技術士会九州支部・九州技術士センター 冬季号 < 第58号 > (平成15年12月15日発行)

## 巻 頭 言

### 技術士類似団体を考える

前九州支部長 顧問 川崎 迪一 (建設・福岡)

何年前のことであるが、(社)日本技術士会(以下本部と称す)の支部長会議で会員増強と技術士会の一本化の問題が話し合われた。その際、本部から出た言葉が「類似団体」であり、一瞬異和感を感じた。本部では自分の会以外の技術士会を「技術士類似団体」と言い、技術士会の一本化を阻害している要因の一つであるとの見方があるのには驚いた。

全国で技術士が6万人余が登録されているのに、本部会員は1万人余で、組織率は20パーセントに過ぎず問題である。九州では30パーセント、九州技術士センター(以下センターと称す)会員まで含めると50パーセントとなり、かなり良い線までいっている。

類似団体の存在は、本部の年会費が余りにも高く(24,000円→22,000円)入会できないが、各地域において地域に密着した技術士活動を行う必要があるからである。

類似団体には、ピンからキリまであって、ブロック単位では、九州、北海道、県単位では殆んどどの県に、さらには勤務先の団体や企業にも技術士会があって技術士会活動を行っている。特に県単位の技術士会は行政、社会、経済等の活動が県単位で動いているのでその存在価値は高い。最近創設されだした関東地区の県単位の技術士会は、本部会員のみで構成して(社)日本技術士会〇〇県支部と称していると聞いているが、九州各県では会員数が足らず問題にならない。

特異な存在なのが、北海道と九州のセンターである。九州のセンターは(社)日本技術士会九州支部(以下支部と称す)と一身体で合同で事務局を持ち、役員会、総会も合同で行うなどで支部の限定会員の存在と云って良い。年会費は8,000円で、支部会員の本部からの助成金(最近22,000円/3と事務所経費として500万円/支部)と全額とし、支部会員は全員自動的に年会費の負担なしにセンター会員となるよう大変うまく機能している。

北海道のセンターも大体のところ九州と同様であるが、年会費は5,000円、北海道支部会員は別に2,000円、センター会員数は1,700人と九州より多く、組織率も高いが、本部会員は430人、うち390人がセンター会員ということで、センターを北海道の技術士活動の推進役としているように感じられる。

以下、会員制度について思いついたことを述べる。

1. 支部限定会員制度を設けるか、年会費の値下げ。
2. 県単位の技術士会で本部会員が半数以上なら(社)日本技術士会と冠する。
3. 本部会員には機関誌の月刊「技術士」が配布され読まれるのでCPD10時間を与える。  
学会、技術協会の入会者も同じ扱いにする。
4. 類似団体には同胞として好意をもつ。
5. 会員増強策としては、ステップ・バイ・ステップ方式で、まず地元の技術士会へ。

#### 九州・技術士会正会員数調査

平成15年9月30日現在

県名	登録者 (除総合監理) (人)	日本技術士会		技術士センター (含本部会員)		県の技術士会	
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
福岡	1,541	494	32.1	883	57.3	—	— (支部、センターで対応)
佐賀	73	12	16.4	33	45.2	40	54.8
長崎	145	52	35.9	78	53.8	83	57.2
熊本	227	64	28.2	83	36.6	80	35.2
大分	183	54	29.5	77	42.1	69	37.7
宮崎	227	66	29.1	98	43.2	150	66.1
鹿児島	215	52	24.2	79	36.7	166	77.2
計	2,611	794	30.4	1,331	51.0	588	55.0

## APEC エンジニア

九州支部監事 鶴島 郁之輔

〔総合技術監理、建設、APEC エンジニア(土木)・福岡〕

1. 10月6～7日、第33回日韓技術士会議が日本海に面した江原道の束草<sup>そくちよ</sup>で開かれた。参加者は約130名、九州支部からは15名、初めての参加であった。会議は基調報告、5つの分科会の発表、7日は昭陽ダムなどの視察でシンポジウムは終了した。

2. テーマが技術士制度、APEC エンジニアの第3分科会に出席した。日本側から中国の資格制度などが報告された。韓国側、沈教授による“APEC エンジニア制度の実施、双務協定と戦略”の講演は、今後の各国間の技術者相互の自由化についてきわめて示唆にとむもので感銘をうけた。

教授はそのなかで、APEC エンジニア協定は自由貿易協定（FTA）に包括されるもので、協議内容の考慮すべき事項、協定の進めるべき方向、対象とする産業分野、さらに協定の締結方法など、具体的な問題提起と提案がなされた。

質疑で李副会長は、相互承認の働き掛けに対し、日本側の対応がはなはだ鈍いことを指摘された。

3. 95年大阪で開かれたアジア太平洋経済協力会議（APEC）において、参加国の技術者資格の相互承認により、有資格者の流動化を推進することが決議された。決議が効力を発するには以下の手続き、協定を締結する必要がある。

1) 実質的同等性協定：各国において有資格者の審査、登録を行なう。日本は01年から土木および構造の2分野で開始され、技術士と1級建築士が対象となっている。6月末で約2,800人が登録を行なった。韓国およびオーストラリアでは500人前後である。

2) 相互免除協定：2国間で相互に審査を免除する協定である。この締結によって始めてAPEC エンジニアは保有資格で活動ができる。李副会

長はこの協定の促進を図るべきと強調されたのである。

9月、オーストラリアとこの協定が結ばれたが、その分野は機械、電気と化学の3部門で、登録が進んでいる土木、構造は含まれていない。その詳細は不明であるが国内の建設産業の厳しい現状を反映したものと思われる。なお前記3部門は11月1日より登録申請の受付が開始された。

4. 10月、メキシコとの自由貿易協定（FTA）は、農畜産物の協議でもの分れになり協定は先送りされた。同月下旬、バンコクのAPEC首脳会議では、9月メキシコのカンクンで決裂した世界貿易機関（WTO）の新多角的通商交渉（新ラウンド）の早期再開で合意した。

また日韓は05年を目途にFTA交渉を年内に開始すると報じられた。躍進中国、イスラム挑戦、インド台頭、薄まる日本の存在感、アジア外交再構築が必要など新聞の見出しが重々しく眼を射る。今後、否応なく多国間のFTA締結の動きは加速されるであろう。これまでFTAが結ばれたのは、農産物問題の少ないシンガポール1国だけである。

5. ヒト、モノ、カネが地球規模で動く時代である。閉じられた時空間に安定して活力を失なった例を、こゝ10年来数多く経験し見聞してきた。農業および建設業はきわめて土着性の強い産業でその体質改善は容易でない。

電気電子、機械部門など世界の最先端をいく製造業などとの懸隔はきわめて大きい。縮みゆく建設産業、生き残り策に個人としても、組織としても国境の壁はない。現役の技術士諸氏は世界の動きに目を凝らしてAPEC エンジニアに登録し、相互免除協定によって保有資格の一段の活用を図るべきと考える。

(03年11月記)

## 平成15年度第3回、第4回理事会 概要報告

(社)日本技術士会 理事 小出 剛 (農業・福岡)

### 第3回理事会 (9月10日 13時30分～17時)

#### (審議事項)

会長から、松並理事についての様々な不適切行為について倫理委員会での審査要請があった。審議し採決の結果、賛成28名、保留1名(松並理事)反対1名(中井理事)となり、倫理委員会に付託されることが了承された。同理事に関しては、このほか数々の案件があり、審議採決もあったが、複雑でもあり最重要事項のみの報告に留める。

#### (その他)

理事会の審議、報告事項終了後、今回からフリートークの時間を設定する事とした。

色々な意見が出されたが、主な事項として日本技術士会のビジョン作成があった。これは会長からの提案で、資格独占の技術士から職業法的な運用への移行に努めるため、会として能動的に動き、文科省の審議会でも積極的に主張したい。この事によって、もっと魅力ある技術士と技術士会にしたい。結果として技術士会の会員増強にも繋がる。手段として、まず役員選挙広報で各人が主張した「立候補の趣旨」を整理し、ビジョン作成資料の一つとする。政策委員会の中に「ビジョン作成小委員会」を設置する。

以上を全役員が賛成し、次回理事会までに審議資料を準備する事となった。私の業務委員会での技術士活用促進行動計画にとっても必要不可欠なものであり、大賛成の意見を述べた。

### 第4回理事会 (11月12日13時30分～17時)

#### (審議事項)

#### I 「技術士試験検討等特別委員会設置・運営規則」の制定

平成14年度第6回理事会で設置承認された本委員会の運営規則で、12ヶ条からなる本案が承認された。(活動の詳細は報告事項で)

#### II 「技術士及び日本技術士会のビジョン」策定

前回理事会後の意見交換会に基づき政策委員会で検討した案が出された。今後引き続き委員会で次の事項を検討し、理事会への中間報告、広く会員各位

の意見集約、理事会決議を経て16年6月総会に付議できるスピードで取り纏める。以上が承認された。

①(技術士の)社会的・国際的役割、②職業的位置付け、③義務と責任、④試験のあり方、⑤日本技術士会としての役割、⑥技術士会組織のあり方、⑦登録と会員制度、⑧その他。

III 常設委員会等各委員の追加委嘱、退任について資料に従い説明があり、承認された。九州支部関連は、①事業委員会：田中穰治委員退任、是永逸生委員委嘱、②防災特別委員会：現在12名に各支部を含め8名追加(清水博和委員委嘱)。

#### (報告事項)

I 日豪間技術士資格相互承認枠組み文書署名の件  
APEC エンジニア・プロジェクトに基づく初の2国間署名である。10月1日文部科学省で、機械、電気、化学の3分野についてなされた。

II 支部長会議(10月24日)、部会長会議(9月16日)。

III 業務委員会からの報告要旨

技術士活用促進行動計画の一つとして「技術士活用に関する具体的要望・内容」の意見集約を各部部长、各支部長に対し依頼していた事に関し14部部长から回答(110件)あり。大変貴重な情報であり、委員会として、各関係先への要請事項として幾つかのファクター〔①法制化必要事項、②指定資格への要請事項、③各種審議会等での活用拡大、④国・自治体・民間べつの要請事項等〕に分類し、更に即実行可能と時間を要するものに区別し、理事会審議も含め技術士会全体の課題として積極的行動したいと報告し、了解を得た。

IV 試験等検討特別委員会からの報告(抜粋)

主な課題：①第1次試験は門戸を広くし、資格取得の意欲を削がない程度の合格率に。②一次試験は新卒者と中高年受験者との間で不公平が起きない事。③JABEE認定のカリキュラムと一次試験の設問範囲が整合している事。④年度毎、部門間での出題難易度や合格率の格差を小さくする事。

作問体制、試験結果の評価の課題：①問題作成委員

に対し、作成の基準・指針・マニュアル等が明確でない事から傾向・難易度のばらつきが大きい。②試験結果の分析に基づいた問題の良否の評価・不适当問題の排除機能がなく、過去の経験が問題作成に活かされていない。また、このような機能を有する常設組織もない。

改善提案：①前もって出題の範囲・基準・根拠や参考文献（〇〇白書、△△便覧等）を公表しておく事。

②難問、専門過ぎる問題、引っ掛け、長文の問題、

迷わずだけの問い方などを排除するため、作問のマニュアルを定める事。③ JABEE の分野別要件を参考に出題範囲をごく基礎的なものにし、問題数を多くし、選択肢を増やす事。④試験実施後に正解を公表する事。⑤出題の評価活動を行う常設組織を技術士会内に置き、その活動により常に改善提案を行う事。  
今後の課題：①当面第一次試験について検討を実施しているが、第二次試験についても同様の事が考えられる。

## 第 3 回全国支部長会議報告

九州支部副支部長 泉館 昭雄（電気電子・北九州）

秋たけなわの仙台で開催された標記会議に、田中支部長加療中のため代理出席した。

日時：平成15年10月24、25日。監事支部：東北支部

出席者：清野会長、安藤・小針副会長、竹下専務理事、畠山・大谷常務理事、大島（北海道）、中山（北陸）、辻（中部）、加藤（近畿）、牧山（中四国）、吉川（東北）各支部長、津田（北陸）、泉館（九州）各副支部長、他関係者、計17名。

清野会長より、前向きに忌憚なく意見を述べていただきこれを総括して判断するとの挨拶があり、議事に入った。竹下専務理事から、いわゆる訴訟問題には済々と対処しており近く結審するとの報告があり、また安藤副会長から、ここ数年来の技術士会の課題解消見通しを得、これからは前向きの課題に取り組める環境となったとの報告があった。引き続き各支部、及び事務局から以下の報告があった。

1. 支部長会議主要提案事項は、発議書として纏める。幹事支部長が作成し会長に提出する。
2. 各種委員会の旅費等については、財務委員会で総合的に検討する。
3. 支部での受託業務対応方法は検討を進める。
4. 一次、二次試験結果実施報告。関連して、会員増強にかかわる情報開示について検討することとした。
5. 支部主要事業・活動について本部（総務部）、支部相互に情報交換する。
6. CPDは、会員分布に著しい偏りがある場合、デジタルビデオ等、電子メディアを活用する事を検討する。
7. CPD登録実績を、例えばコンサルタント登録時、主務省庁での評価資料に参照する等、その活用を

図る方向で検討する。

8. 一次試験の重要性についての PR に更に務める。本部、支部連携して活動する。
9. すでに一部稼働している本部 IT システムの、支部へのサービスに期待する。
10. 東北支部では、今まで並立していた感じのある各県技術士会を、(社)日本技術士会東北支部組織として集約した。
11. 前項に関連して、(社)日本技術士会の冠を、県技術士会、協議会等が使用することに厳しい制約がある事を確認した。
12. 技術士会運営について、支部の現状並びに県技術士会等の増を踏まえた見直し検討の必要性について意見が出た。
13. 業務委員会「技術士活用に関する具体的要望・内容の支部単位での集約依頼について」の要請他事務連絡があった。  
九州支部からは、前項 4、5、6、7、8、11を提案した。この他に、最近の活動例として、K-RIP、国際ビジネスプロスキルアドバイザー、北九州未来環境関連技術開発活動、中小企業総合事業団アドバイザーなどの地元省庁との協業関係、及び一次試験受託業務業務対応状況と課題を報告した。  
全体として前向きの雰囲気が高く、内容がますます濃くなっている事を実感した。支部会員の意見・提案は支部として纏めこの会議を活用して、理事会等常設機関につなぎ具現する方法も考えられる。技術士会、支部活性化にむけての会員諸氏の提案・意見を切望する。

## 15年度第2回九州支部CPD研修会

支部CPD委員 田辺 努（機械、総合技術監理・福岡）

さる10月25日(土)、福岡商工会議所で九州支部主催によるCPD研修会が実施されました。九州支部として、A部門、土曜集中(6時間)、4回/年という参加しやすさと効率性を考慮した方法でCPDを実施しており、今回は平成15年度の第2回目です。

内容は次の4題で行いました。

①「有明海周辺経済の今後について」

講師：大矢野栄次氏（久留米大学経済学部 教授）

②「鳥栖市、九州の地域起こしと今後の展望」

講師：牟田秀敏氏（鳥栖市長）

③「人生はチャレンジ」

講師：松尾憲一氏（松尾省力研究所長、技術士：機械、総合技術監理部門）

④「相手の立場で考える」

講師：町田貞徳氏（町田電気管理技術士事務所長、技術士：電気・電子部門）

今回も出席者数は約130名と多数の参加となり、盛況でありました。

議題①

常識と思っていることが実は常識ではない、安易な固定観念に囚われるべきではないということを実体的な例を示され、ユーモアたっぷりに、わかり易くお話いただきました。

例えば、今流行りの「マニフェスト」という言葉を広辞苑でひくと、共産党宣言とあり、果たして一般的な政党公約を指す言葉として適当かどうか。

「日本の失業率が高い」といわれているが、失業率5%は世界でも相当低い数字であり、また失業者といっても、年間1千万円以上使えるお金を持っている人やフリーターなど、自分の意思として仕事をしない人なども含まれ、本当に食うに困っている人は日本では少ない。失業は権利である。また、「地球温暖化の原因は炭酸ガスである」ということも実はまだ証明されていない、などです。

我々技術士としても、世の中の様々な常識とされていることについて疑問を持って考える習慣をつけることが大事であると思いました。

また、最近起こっている災害や事故はシステムの起こるべくして起こった当然の帰結であるということをお話されました。例えば最近の博多の水害について、堅粕という地名は酒かすのようにベタベタした湿地であることを指しており、地下鉄や地下街を建設するような土地ではない。もし建設しなければならないならば、当初からそれ相応の設計上の策を講じるべきであった。有明海のノリの色落ちも諫早干拓だけが原因ではなく、むしろ三池炭鉱による沈下、生活雑排水や化学肥料の流入、さらには漁師自身の海面養殖廃材等が原因であるということです。

それから大矢野氏の10年前からの持論であるという「大筑紫経済圏構想」について話されました。まず筑後川流域には豊かな水があり人が住むにも適しており、開発の中心となり得る。佐賀空港は滑走路を拡大すれば安価に国際ハブ空港化できる。佐賀に新幹線を乗り入れ、空港へのアクセス強化、及び夜間に安い電力を活用し新幹線による貨物輸送を行う。水害防止策として堤防を築き、道路および新幹線はその堤防の上を走らせることでトータルの建設費を低減する。また、高速船スーパーテクノライナーによる貨物輸送も考えられる。こういった物流機能を強化すれば、筑後川流域でとれた安心な野菜・果物を東京・大阪地区に効率的に提供することができる。このような内容の案であり、柔軟で大胆な発想であり非常に面白いと思いました。

議題②

鳥栖市の現在の取組みとして、日本の技術立国の支援をしていきたい、そのためにテクノポリス化を目指し既にいくつかの研究施設を誘致している。平成16年にはシンクロトン光応用研究施設も完成する。将来、鳥栖と久留米の合併案や九州の道州制への移行、その際には鳥栖が地理的に九州の州都として考えられる。九州は日本の九州であると同時に、アジアの九州として位置づけられる。という市長としての構想を述べられました。

議題③

松尾氏のいわば自分史を要約し話されました。父が満鉄の電気技師であったことから、現在の北朝鮮で生まれ、マイナス20℃の吹雪の小中学校に通学。小学校4年から家族と離れ単身九州に帰り、当時のエリート教育機関であった陸軍幼年学校に入るため猛勉強、戦争に突入し米国のB29による大空襲で焼夷弾の雨の中を奇跡的に生き延びた。戦後の極貧との戦い等、私など最近の平和ぼけした世代からは想像もできないような激動の時代を生きてこられており、大変参考になりました。

#### 議題④

町田氏のコンサルタントとしての豊富な経験から、相手の立場で考えることが大事である。特に指導対象の組織に技術者がいる場合はその立場を尊重して

やることがポイントであるということです。また、一つおぼえておくとうよい指標として1kw電力を削減すると年間11万円節約できる（高圧A契約）ということです。また、アルコール依存症患者とつきあった経験から、その原因と治療対策についても紹介されました。私も酒を飲む機会が多いので気をつけたいと思います。

以上、研修会の概要について紹介しました。なお、九州支部主催のCPD研修会の次回開催予定は平成16年1月24日(土)です。

皆さんのご参加をお待ちしております。また、今後の研修会の講師について自薦、他薦ありましたら九州支部CPD委員会に連絡をぜひともよろしく願います。

## 部会報告

### 第一部会技術見学会

#### 福岡市港湾局東部建設部

#### アイランドシティ

第一部長 野見山 益生（機械・福岡）  
平成15年9月26日、参加20名。

恒例の第一部会研修見学会を今年は福岡市港湾局東部建設部のアイランドシティで実施しました。特に西側に開港した港湾荷役設備（平成15年9月運行開始）を見学させていただくことで、大型ガントリークレーン並びに最新型のコンテナ用ITトランスレーナ等見学しました。

平成6年に着工したアイランドシティも全体面積400haのうち53%が竣工。その目的の、①港湾機能の強化②都市空間の形成③新しい産業の集積拠点④東部地区の交通体系の整備に向かって着実に進行しております。

以下見学順序に従って内容補足します。

#### 1. アイランドシティ整備事業

我が国の中枢国際港湾である博多港の国際競争力の強化を図るため、国際海上コンテナ貨物の増加及び大水深を必要とする大型コンテナ船の寄港に対応したコンテナターミナルの整備、並びに新しい物流拠点を構築すること。次に広域交通ネットワークとして、西鉄宮地岳線と地下鉄箱崎線との直通運転化の実現、及びアイランドシティへの鉄道の導入によ

り福岡空港・都心と直結する鉄道網の形成を目的としていること。次に産業集積拠点の形成として健康・医療・福祉分野の研究開発から事業サービス部門、高度情報化IT関連分野、アジア国際ビジネス分野の拠点ゾーンの形成。次に社宅及び住宅環境を目的とした生活ゾーンの形成等、幅広い分野から構成されています。

このアイランドシティ整備に伴う経済効果について、①物流機能面から年間8,200億、②都市機能効果として年間1,900億、その他雇用創出効果、福岡市への税収効果等見込まれております。

次にロボット産業について港湾局の取り組み並びに今後の計画等説明がありました。現在ロボット産業振興会議を設立し、来年度の世界ロボット会議及び国際ロボット見本市に向かって進行中の説明をうけました。



アイランドシティコンテナ荷揚げ設備見学

## 2. コンテナターミナル設備について

平成15年9月に供用が開始されたアイランドシティ国際コンテナターミナルは、神戸以西では最大級の水深14m、延長330mの岸壁で、大型船の荷役にも対応できる高規格のコンテナクレーンを配置し、ITを活用した情報サービスなどの最新技術を導入し、福岡とアジア・世界を結ぶネットワークの拡充を目指しております。

コンテナターミナルに設置された大型クレーン3基(写真右)は高さ101mで、コンテナを吊すアームは50mあり大型コンテナ船に十分対応でき、1時間に30~35個のコンテナ荷役が可能で、コンテナクレーンは港に舞い降りた鶴をイメージしたカラーリングが大変美しく遠くからも楽しめる景色です。

コンテナストックヤードは15haで、コンテナ荷役にはトランスファークレーンが9基設置され、4輪タイヤ駆動方式で地中に設置された磁気センサーに行き先番号別に正確に4段積まれてゆきます。写真右のガントリークレーンの右側に並んでいるのがトランスファークレーンです。

その他IT技術導入のリライトカードシステムの採用で、これまでトレーラがゲート前で長時間待ち

の行列をしていたのが、受付時間の大幅な短縮ができるようになっており、これはトレーラ全車を完全登録制にしてITカードを発行しターミナル内での移動場所の指示を行うとともにコンテナの受け渡しの際の認証行います。その他冷凍・冷蔵用コンテナに電気を供給するコンセントを240個備えてあります。

今回の見学で博多港がアジアの拠点としてより安く、早く、安全な国際貿易港として発展して行くことを期待して、一同記念撮影をし、関係者の方に厚く御礼を述べて基地を後にしました。



コンテナガントリークレーンとトランスターナ

## 第六部会研修見学会

### 八女西部クリーンセンター

### 八女西部リサイクルプラザ

第六部会長 松浦 茂雄 (環境・福岡)

第六部会ではこれまでに大都市型ゴミ焼却施設(900t/D: ストーカー炉)や中小自治体型広域収集・RDF施設(流動床炉: 315t/D)について研修見学会を実施してきた。



見学会参加者

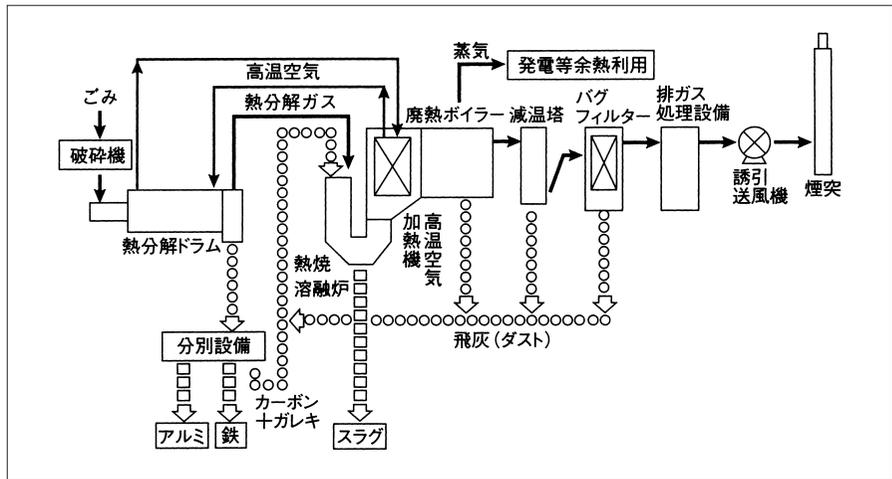
現下のゴミ問題(一般廃棄物)への対応に邁進している自治体の苦労とともに、先般の三重県におけるRDF貯蔵サイロの爆発にみられるような、安定操業に至るまでの新技術の確立についての研究の重要性、保守管理の必要性を認識させられたところである。

今般10月2日(木)の八女西部広域事務組合傘下の八女西部クリーンセンター及び八女西部リサイクルプラザの研修見学会に18名(申し込み27名)が参加した。

研修の対象とした「ガス化熔融炉:ゴミ熱分解(間接加熱)・燃焼熔融方式」によるゴミ処理(110t/D×2炉、全連続式)は次世代ゴミ処理の最先端を行うと評価されており、わが国最初の設置(2000年4月)に係る施設である。一面の茶畑と果樹園の中に壮大な施設は立地され八女市、筑後市と周辺六町村のゴミ収集を対象として110t/Dの可燃系ゴミと約10t/Dの不燃系ゴミを処理している。

担当官よりこれまで3年間の操業実績の説明及びビデオによる施設運転状況の説明の後、施設内を巡回見学した。主体となるキルン式熱分解ドラム(直径3m、長さ25m、3rpm)が窓越しにゆっくりと回転して、ドラムからの熱気も感じられ壮観であった。

外部からの熱エネルギーを使わず、溶融炉からの熱気流をキルンの中の間接加熱熱源としてゴミの乾留(500℃)を行い、一方で溶融炉の熱源はキルンで発生した熱分解可燃ガスと熱分解で炭化した可燃物の低空気比旋回流による燃焼熱(約1,300℃)による灰の溶融までを一連のシステムとして集中監視



施設フロシート

方式によりコントロールしている。

ダイオキシン対策も万全とみられ、二段式のバグフィルターを設置して粉塵対策や排ガス対策は周辺の環境に配慮されている。

今日まで大きなトラブルもなく着実に成果を挙げていることが伺われた。

併設されているリサイクルプラザではビン類の自動色分け選別機構とペットボトルの選別・圧縮工程を窓越しに見聞し、さらに自転車や家具類のリサイクル現場を見学して、循環型社会に向けての真摯な取り組みに接する機会を得られたことは今回の研修の成果と受け止めている。



施設モデル

第六部会ではこれまで一般廃棄物対策としてのゴミ処理の実態について知見を広めてきた。今日の廃棄物問題はまさに21世紀の重要課題として展開され

る要素を包含していることに思いを致し、今後とも産業廃棄物問題からリサイクル、循環型社会の構築、さらに持続可能な発展に向けての努力が期待される。

## 第四部会現地見学会

### 海水淡水化施設

第四部会幹事 川田 博見 (水道・福岡)

平成15年10月16日(水)、技術士第四部会(参加者30名)は、福岡市東区奈多地区で建設が進められている「海水淡水化施設」を見学した。

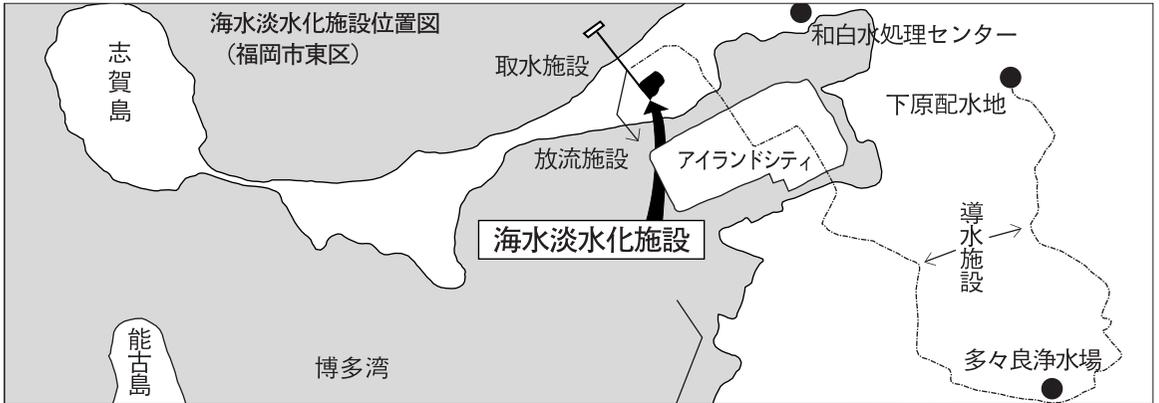
JR 香椎線雁ノ巣駅で14時40分に集合し、タクシーで約5分。視界に大規模な建物が出現した。日産最大5万m<sup>3</sup>の水の工場は、我々の想像を越える規模のものであった。

#### 【事業の目的】

福岡都市圏では、これまで筑後川からの広域利水を積極的に進め安定給水の確保に努めてきたが、近年の小雨傾向もあり渇水が頻発している。このため福岡県において平成22年度を目標年次とする「福岡地域広域的下水道整備計画」が策定され、その中で『海水淡水化事業』が位置づけられ、福岡地区水道企業団により建設が進められている。

#### 【事業概要】

事業主体：福岡地区水道企業団  
 建設地：福岡市東区大字奈多字小瀬坂  
 敷地面積：約46,000m<sup>2</sup> (福岡ドームの1.3倍)  
 生産水量：1日最大50,000m<sup>3</sup>  
 取水方式：浸透取水方式(玄海灘より取水)



淡水化方式：逆浸透法（淡水回収率60%）

放流方式：和白水処理センターの処理水と混合して  
博多湾へ放流

導水施設：導水管φ＝800mm 延長＝約20km

事業費：約440億円

供用開始年度：平成17年度

【構成団体】

福岡地区：福岡市

筑紫地区：大野城市、筑紫野市、太宰府市、春日・  
那珂川水道企業団（春日市、那珂川町）

粕屋地区：古賀市、新宮町、久山町、粕屋町、篠栗

町、須恵町、志免町、宇美町

前原地区：前原市、志摩町、二丈町

宗像地区：宗像市、玄海町、津屋崎町、福岡町  
（7市12町1企業団）

【事業の特徴】

浸透取水方式→清澄な海水を取水。

前処理に UF 膜→微生物等を除去。

逆浸透膜→高压方式＋部分低压方式付加。良質な水を生産。

淡水回収率60%による低コストの水の生産。

【感想】

施設見学の後、質疑応答の時間が設けられ、活発な意見交換が行われた。特に海水の取水方式では、周辺海域への影響を少なくすることや、海底砂のろ過作用を利用した取水などの工夫がなされ感心させられた。

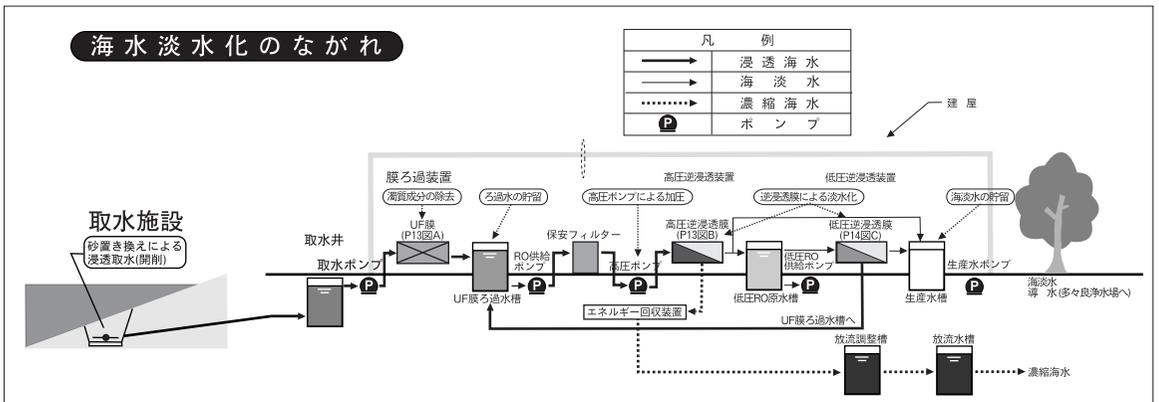
【おわりに】

今回の施設見学は、参加者にとって目新しく興味深く、また有意義なものであった。

施設見学にあたり、懇切丁寧な説明と貴重な時間をさいて頂いた福岡地区水道企業団の職員の皆様に、この場を借りまして厚く御礼申し上げます。



プラント



## 地域だより

### 佐賀

## NPO と技術者運動

堤 茂徳（建設）

佐賀県における技術士集団の集まりとして『NPO 法人技術交流フォーラム（平成13年8月法人化認証取得）』がある。現在会員数は、53名（平成15年11月現在）でさまざまな部門の技術士が在籍している。設立当初の平成13年から以下の活動を行ってきた。

- ①技術者交流会…技術向上及び異業種連帯を目指した科学技術交流
- ②講習会・相談会…科学技術に係る若年技術者・学生向け講習及び相談会
- ③講演会・交流会…街づくりに係る一般市民向け講演会・交流会
- ④技術指導・支援…科学技術に係る団体要請による技術指導・勉強会支援
- ⑤勉強会・情報交換・見学会…科学倫理・歴史・環

境・街づくりと科学技術等、技術士継続教育及び災害支援活動の訓練と行政との連携、APEC エンジニアの養成及び技術者の国際交流会  
上記事業は、本年度も継続中である。

ところで、最近の建設業界では組織よりも個人の力量が問われる時代となってきた。例えば施工分野の技術者には、“図面どおりできて当たり前”であって従来の枠にとらわれない新しいアイデアやコストダウンが求められている。さらに、新しい技術の習得、異業種との交流、積極的な CPD 単位や資格の取得が必須条件となっている。現在も将来も技術者は、自らの専門の力量を高め、社会に適用させることで社会に貢献し、社会から正当な評価を受けるよう努力していかなければならない。

このような社会状況の中で当技術交流フォーラムの行う事業は、技術者自身の資質向上に貢献し、行政と市民との間に立った“技術の翻訳者”の立場で行動して地域社会（佐賀）にアピールしている。

### 大分

## 土木の夢をもう一度

代表幹事 吉良 文至（建設）

大分地区における地域だより、及び活動を振り返るとき、コンサルタント社内や建設業界で、個々のもてる技術を存分に活躍されています。そのご活躍のなかにあって「日経コンストラクションが全国で募集された懸賞論文」の話題をご披露させていただきます。

齊藤光雄（光建エンジニアリング代表：技術士補）さんが快挙を達成されました。

懸賞論文「土木の夢」で**最優秀賞**を受賞されたのであります。心からお祝いを申し上げます。

その論文の内容を私なりに紹介させていただきます。齊藤様が不本意な点はご容赦下さい。

☆土木技術者の道を選択するのに映画「黒部の太陽」のスケールと「生活の糧」が同居している点

が動機として伺えます。

☆土木産業は早急的でやや社会性を見誤っていた。

この早急性はツケとなった。

☆もう一度「土木の夢」を再構築するには、人間のロマンとしての土木であり、地域の真意を考え一辺倒を排する必要がある。

☆30年スパンで良いから、地域住民、専門家、見識者を交え十分な検討を重視すること。

今後の土木業界は技術視点と社会視点を共有することが望まれる。

☆最後に、地域社会のニーズに対応できる人間性こそ役立つ土木技術者の姿であり、語り合いで「夢」を共有していきたい。

以上、これまでを振り返りさらに未来を見つめる姿に感動と共感させられました。

なお、本文は日経コンストラクション2003年10-10号に掲載されています。

論者の視点とかけ離れた解釈になっていないか気がかりでございます。是非本文をご一読下さい。

## 福岡

### 青年技術士グループの活動状況

福岡青年技術士ネットワーク運営委員

棚町 修一（総合技術監理、建設）

青年技術士懇談会の全国ネットワークに向けての動きが始まっていますので、その概要をご報告いたします。

一昨年12月に「日本技術士会 青年技術士懇談会支部交流グループ」が発足し、今年になって、各支部の青年技術士懇談会等のグループに活動状況に関する問い合わせがありました。九州では任意団体である「福岡青年技術士ネットワーク」に問い合わせがあり、メールでの情報交換を通じて以下の状況がわかりました。

1. 各地域に青年技術士グループの集まりがあり、福岡と同じように“研修・交流・親睦”等を目的とした活動があり、その位置づけや構成メンバー、活動内容には以下のような違いがみられます。
- ・支部の下部組織として活動：東北、中部、北陸の

- 3地区
  - ・独自組織として活動：北海道、近畿、九州の3地区
  - ・組織ができていない：中・四国地区
  2. 北海道、東北、北陸、中部、近畿、中・四国、九州の各支部の若手技術者・修習技術者との相互交流を進めるため、今年から相互交流会が行われています。
  - ・第1回相互交流会（5月17日）：本部が東北、中部、北陸に呼びかけて開催。
  - ・第2回相互交流会（10月31日）：技術士全国大会（近畿）を契機に、近畿支部が全支部へ呼びかけ、本部、北海道、東北、近畿が参加して開催。
- 支部交流グループでは、今後の活動内容として以下の項目を掲げています。
1. 支部交流活動の拡大：4支部から7支部(全支部)
  2. 持続的な支部交流の定着：支部交流会議を定期的（年1回）に開催
  3. 合同企画の立案実施：若手技術者、修習技術者のスキルアップ
  4. 他グループへの活動の展開
  5. 人材ネットワークの構築

## 鹿児島

### 災害技術支援部会、成果を発表

代表幹事 稲田 博（建設）

今年5月に発足した県技術士会災害技術支援部会（委員長；中山義雄；55名）では、各分野の5班に分けて、「災害時にどのような技術支援活動が出来るか」について、霧島S岳大規模火山噴火を想定した図上演習を行ってきたが、このほど成果の発表会を開いた。（H15-11-8）

- ①演習概要総括班（火山灰、溶岩、火砕流等の発生）
- ②住民避難・インフラ班（避難体制、インフラ被害）
- ③農業・農地班（農地、農作物、家畜等の被害）
- ④森林班（森林の被害と林地崩壊）
- ⑤市街地・土木班（道路構造物の被害、避難路確保）

今後、現地調査も含めて継続的に演習を繰り返し、各班の調整を図りながら、リスクマネージメントを導入した組織的・技術的なリスクを洗い出して検討した成果をホームページ等で一般公開する方向で進

める。（URL <http://kagoshima.cool.ne.jp/engineers/>）

#### CPD 研修は順調

会員を講師にした毎月（第2土曜日午後）のCPD研修会の実施と計画。

- 5月；門松經久（農業）：環境ということを考える
- 6月；狩集克己（建設）；社会資本整備とリスクマネージメント
- 7月；中尾五十三（林業）：桜島地区民有林直轄治山事業
- 8月；富宿一隆（農業）：十曾ダムの補強、補修の事例
- 9月；奥山康宏（建設）；H5豪雨災害U谷砂防設計概要
- 10月；箱田信幸（応用理学）：最近の地質調査手法
- 11月；下水流隆（農業）：農村農業の政策評価の課題
- 1月；西山哲郎（建設） 2月；坂ノ上孝雄（水道）
- 3月；中俣敏朗（建設）

#### 青年部会の活動

年齢55才以下の会員で組織する青年部会では、年2回の技術講演会、年1回の現地研修会等を開催している。今後、開催済みCPD研修内容をまとめた技術資料の冊子化を検討する。

# 災害・技術支援委員会の編成と活動方針並びに初仕事

(社)日本技術士会 防災対策特別委員

九州支部副支部長兼災害・技術支援委員長 清水 博和（建設・福岡）

### 編成と活動方針

- ・技術士会の技術支援は、建設部門の自然災害に留まらず、工場爆発、原子力関係、化学・衛生関係、発電送電などの人工災害に対応できる強みがある。
- ・技術力不足が懸念される市町村の災害復旧の技術支援を主体とする。
- ・九州支部の災害専門家登録者は平成15年8月10日現在95名である。
- ・九州支部での活動は、県単位を基本とし、支部は県からの要請による応援、支援で対応する。
- ・それでも技術的に不足する場合には、技術士会本部へ応援を依頼する事とする。
- ・県単位の活動組織は、技術士会所属の技術士（災害専門家登録者）に限定しない。
- ・民有地への立ち入りのために、顔写真入の身分証明書（支部長印）を発行した。
- ・県によっては、県出身の建設技術職OBで組織された、防災エキスパート協会、砂防技術職OBで組織された砂防ボランティア協会がすでに設置されている所が多い。県の災害・技術支援委員会の県組織はこれらのボランティア団体と連携を深めて、ボランティア団体の頭脳的な役割分担となるように努める。
- ・支部としては、県単位に代表幹事が指名されている。従って代表幹事が災害技術支援活動の中心となる。
- ・県単位の災害情報収集責任者の指名

大災害発生時には、県の総務部内に、災害対策本部が設置され、土木部長が土木災害対策の総責任者となり、河川、道路、砂防、海岸、港湾、都市等の管理者（課長）が夫々の災害対策に当たる。

政府災害対策調査団、衆議院災害対策調査団、参議院災害対策調査団、自民党を初め各党の調査団などが連日押しかけてくる。災害対策に寝るひまもないのに、各調査団の資料作りと、現地案内と被害報告など戦場のような状況の中で、一面識もない技術士会の災害・技術支援委員会の委員ですと情報をもらうのは極めて困難である。煩がられて、営業活動とみなされ口も利いて貰えないの

が実情である。

その対策として、当該県の顔の利くOBの方に、その県の災害情報収集責任者になって頂いているのが九州支部の特徴であり、重要な配備である。

### 委員会の初仕事

本年7月19日の豪雨出水により甚大な被害を蒙った福岡県嘉穂郡内や飯塚市の復旧対策の現地指導を、塚本義孝福岡県飯塚土木事務所長（建設部門技術士）から依頼を受けて去る10月4日に現地調査のうえ工法指導した。実はこれが本委員会の初仕事となった。

私の23年前の災害査定官としての体験に基づいて指導をした。取り扱いが多少変わったところがあると思われるが、2年前に災害復旧法令の最新の情報に基づきテキストを作成した際に勉強していたので、思いがけず役に立った。指導事項は大略次のとおり。



現地被災状況

①災害復旧費の申請の仕方 ②現地説明場所と説明の仕方 ③写真撮影の方法 ④査定官と立会官及び提案者との関係 ⑤査定権、立会権、提案権の3つの権限関係 ⑥提案者と立会者同意の基に査定官が査定金額を朱書して復旧費が現地で決定する ⑦災害査定額と改良費の関係 ⑧現地発生利用材料の選定と多自然型工法の採用

現地には、5 t 程の大石が多数散在し流水に支障があることでもあり、取り除きに多額の費用が嵩むので、護岸や護床工に巨石積みを計画するように指導した。11月4～7日に現地査定を受け、大略申請通り災害査定額が決定されて、巨石積み工法は提案どおり採択されたそうで、復旧の暁にはその経済性と自然環境創生の面での多自然型工法のモデルとして大いに期待できそうである。

#### 飯塚土木事務所の災害関連復旧事業の概要

○遠賀川水系 一級河川 内住川

福岡県嘉穂郡筑穂町大字内住地内  
災害復旧工事延長 L = 1,120m 右岸 = 988.3m  
左岸 = 490.8m

災害復旧査定金額 C = 351,578千円  
主な工種 環境保全型ブロック積 6,050.2㎡  
大型ブロック積 458㎡

改良延長 L = 1,879m  
災害復旧関連事業費 C = 701,228千円

○遠賀川水系 一級河川 大分川

福岡県嘉穂郡筑穂町大字大分地内  
災害復旧工事延長 L = 1,294.3m 右岸 = 857.1m  
左岸 = 1,072.8m

災害復旧査定金額 C = 477,687千円  
主な工種 巨石積 8,897.2㎡  
大型ブロック積 184.2㎡

改良延長 L = 1,756m  
災害復旧関連事業費 C = 913,964千円

## IT推進今後の方向について

九州支部IT推進委員長 大里 信義（総合技術監理、化学・北九州）

周知のごとく技術士会九州支部においてはIT化を推進すべく、IT推進委員会で活動を進めてきましたが、丁度本部のほうでもIT化を進めており、支部としても本部のシステムを活用して効率的で齟齬がないように進める方向に転換して検討を進めてまいりました。

去る11月5日泉館副支部長もまじえて推進委員会議をもち、今後の方向について打合せを行い、次のように進めることにいたしましたのでご報告します。

日本技術士会九州支部会員（以下正会員と呼ぶ）、九州技術士センター会員（以下センター会員と呼ぶ）を次のように分けて考えます。

① 正会員で本部のリストへ登録してメールでの受信が可能な方（本部登録パスワードを取得することも含む。できるだけ多くの方にこの分類になっていただきたい）

② 正会員でメールでの受信が不可能な方

③ センター会員でメールでの受信が可能な方。

④ センター会員でメールでの受信が不可能な方。

に分けて①の方については今後できるだけ早い機会に本部の同報メールまたは通常メールを利用して講演会案内などの通信を行うように切り替えていきま

す。軌道に乗ってきたら従来のファックスによる通信をなくしていきます。（H16年3月めど）

②③④の方については当面は従来どおりファックスによる通信を行います。③の方についてはできるだけ早い機会に支部独自のメールによる通信に切り替えていきます。

②と④の方については今後1年半（平成17年3月末）をめどにメールでの受信ができるように対応していただき（できるだけ①の方向に移っていただき）様子を見て、ファックスによる通信を全廃したいと思っています。

できるだけ①のほうに移っていただきたいという理由は、

1. 正会員として何時でも技術士会のHPにアクセスして講習会等の開催状況を知り参加登録をしていただくことができる。
2. 他の会員情報（住所電話番号、専門分野など）にアクセスし技術士同士での共同作業ができやすくなる。
3. 自分の専門分野などを登録して業務の獲得につながる情報を広報できる。
4. 技術士会としても会員に対し時間的、費用的、情報の内容的に格段に向上したサービスができる。

等です。

①の方向への移行は、正会員の方は自分で技術士会のホームページにアクセスしてできますし、パスワードの変更も自由です。(従って正会員になることが先決となります)

今後はこのようなシステムに移行すべく IT 推進委員会、支部事務局で態勢を整えつつあります。

つぎに、支部会員のパソコン教育についてですが、会員の教育に対する要求の幅が広く会としての対応

が難しいと考えます。一方市中には色々と要求に応じたパソコン教室があり、その気になれば勉強は可能です。したがってもし必要があれば要求に応じてそのような教育機関を紹介するにとどめることにすることにいたしました。

またもう一つの方向としては技術士同士の教えあいボランティアを奨励したいと考えております。学びたい方が個人的に知り合いの技術士でより詳しい方と話し合っただけで教えてもらうようにするのが一番能率的なようです。よろしくご協力をお願いします。

## トピックス

### 部門の大括りについて

井上 博

(総合技術監理、応用理学、建設・福岡)

第30回技術士全国大会が、大阪において10月31日に開催されたが、それに先立ち30日に応用理学部会例会が持たれ、『部門の大括り』をどう考えるかについてのパネルディスカッションが行われた。

#### 1. 部門の大括りの問題

科学技術・学術審議会から『技術士試験における技術部門の見直しについて』の答申が平成15年6月2日に出され、その中で「技術部門の大括り化」について触れられている。その要旨は、以下のとおりである。

「技術者の幅広い基礎力を養い、継続的な能力向上・能力展開が促進できるように、技術部門を大括りすることが妥当である。優れた技術者には、①基本的な資質として高い職業倫理、創造能力、新しい知識を獲得して、それを統合していく能力、②技術的な能力として、専門知識の応用力、幅広い視野と知識、適確な問題設定力・洞察力等を統合して問題解決する能力、③技術者として大成するために不可欠な経営・管理能力や説明力、コミュニケーション能力等を有し、国際的に通用することが求められる。」

現在の20部門をどういう括りで再編成するかというのは難しい問題ではあるが、APEC エンジニアとの整合を図るという点からは見直しが必要になってきている。6名のパネラーから様々な意見が出されたが、20部門を大きく3系統にする案、20の分野を分解して APEC の分野に当てはめる案などが出たが、意見の集約には相当の時間と労力を要するもの

と考えられる。

ある情報では、応用理学部門は資源工学部門と統合する案もあるようだが、応用理学部門は他の大部分の部門の基礎的な技術を担っており、開発や生産を目的とする資源工学部門とは相容れないところがあるように思われる。統合を進めるとすれば、個人的には、生物工学部門や環境部門を統合の対象として地球環境部門あるいは基礎科学部門というような大括り案も考えられる。現在までの自分の経験からは、資源部門との統合には疑問を感じる。

#### 2. 技術士の量的充実

応用理学部門の技術士を増やすことが望まれているが、以下の問題点がある。

- 応用理学部門の技術士を受験する技術者の大部分が、理学部の卒業生である。
- 大学の理学関連学科のカリキュラムが、JABEE 認定機構から認定されないと、その学科の卒業生は永久に資格を取得できないことになる。
- APEC のカリキュラム (案) に示されている岩盤力学や土質力学などのエンジニアリングの専門教員が皆無に等しいため、現行カリキュラムでは認定されることは難しい。
- また、大学が JABEE 認定を受けたとしても、将来的に企業側に卒業生を受け入れるだけの余力が、社会に応用理学部門の技術者を大量に必要とするニーズが生まれるのか。

以上の現状と問題点を踏まえ、各大学は JABEE の認定を受けるべく取り組みを進めている。02年度までに、35学科・コースが認定され、認定修了者も2,500人に達しているが、理学部門での認定はない。なお、教育プログラムの審査委員会は、JABEE の会員学協会から選出されることになっており、応用理学関連学協会の後押しの役割が重要になるものとする。(西日本技術開発(株)土木本部)

### I

## 自然の領域

### －残されていた土地－

片岡 鉄蔵（林業・熊本）

本年7月20日、熊本県水俣市宝川内集地区、深川新屋敷地区を襲った土石流は、19名の犠牲者と7人の重軽傷者を出して県内に衝撃を与えました。当時、防災情報伝達システムや避難警戒態勢等についてさまざまな問題が指摘されましたが、最大の原因は“そこに人が住んでいた”ことにあると思います。

古くから時の為政者が治水対策に心を砕いてきたことは、今も各地に残る数々の遺構で偲ぶことができます。江戸時代に「砂留め」と呼ばれる石積みの砂防ダムが作られていたことには驚嘆しますが、基本的には、山には木を植え、川には堤を築き、河川が本来持っている遊水機能の活用、というものでした。明治に入って18年に大阪、淀川で発生した大洪水（明治の大洪水）、29年の木曾川の氾濫、などをきっかけとして制定されたのが、河川法①（明治29年）、砂防法②（同30年）、森林法③（同30年）で、いわゆる治水3法と呼ばれるものです。

土砂災害の防止を目的とした法律ができたのは、昭和33年の、地すべり等防止法④が最初で、その後は、災害対策基本法⑤（昭和36年）、急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律⑥（昭和44年）と続けざまに制定され、その後、約30年の間において、土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律⑦、通称「土砂災害防止法」（平成12年）が制定されています。②、④、⑥を砂防3法と呼んでいます。

治水3法の制定から、④が制定されるまで約60年が経過しています。土砂災害関連の法律の制定経過をみると、大きな災害が起きればそれに対応する新しい法律が作られるというパターンを繰り返していますから、見方を変えたとこの60年間は大きな災害がなかったか、少なかった。明治以前も治水対策が主ですから、それまで、つまり「地すべり等防止法」が制定されるまで明治以前も含めて、日本には

大きな土砂災害はなかった、と見てもよいのではないのでしょうか。

土石流、地すべり、がけ崩れを土砂災害（わが国の発生数：S58年～H14年の20年間の平均で毎年約840件）とっていますが、この三つは地表が侵食されて低平化される過程、いわゆる地球の輪廻であって地球に重力がある限り人間の力で阻止することは出来ません。それでも見るべき土砂災害はなかった。ということは、土石流や地すべり、がけ崩れが発生しても“そこに人が住んでいなかった”からでしょう。

ここで、初めて土砂災害の防止を目的とした法律「地すべり等防止法」（昭和33年）制定のきっかけとなった諫早水害（昭和32年）当時の時代背景を見てみると、人口が爆発的に増加し、五五年体制が確立し、高度経済成長を推進し始めた時期でもあります。人口の増加と高度経済成長は核家族化を推進し、人々は、土地を求めて郊外へ進出しました。それまで「自然の領域として残されていた土地に足を踏み入れた」のです。土砂災害の始まりは、まさにこの時期と一致します。

水俣の場合はどうだったのか。被災した集落は、「山ん神さん」という氏神（守護神）を持つこと、結（ゆい）や組（くみ）などの古い慣行が残っていること、など古くからの村の原型を色濃く残しているように思われます。村では、三世同居など当たり前でした。しかし、やはり核家族化の波は村でいうところの分家を促しますが、分家は村を出て行くことはありません。

今回、亡くなられた方々の年齢が40才台以下の方が多かったことからみても、災害に遭われたのはおそらくこの分家であったろう、と思われます。分家にはまず土地が必要です。集落内の扇状地上の緩傾斜地は絶好の適地と映ったに違いありません。たとえ、そこは危険な場所だから、自然の領域として先人達が残っていた土地であったとしても、すでに伝承も失われていては、何故「そこが残されていたのか」までは、素人では考えつかないのは仕方ないことです。それに、安全な土地はすでに本家が占めているのですから。しかし、ここでも「自然の領域として残されていた土地」に家を建てて災害にあったことは、核家族の場合と一致します。

宝川内の地名について「カワチ」「カウチ」の地は、川が氾濫すると川の内になる所の意だ。(熊本日日新聞、7・21、新生面)とあり、同じく熊本日日新聞、7・23の「土石流跡追跡ルポ」では、「ここは、もともと土石流の堆積物でつくられた扇状地、世代を経るうちに、古い災害の記憶が風化してしまったんでしょうか」(崇城大学、村田教授の話)という記事が載っています。痛ましいが今回の災害は、ある意味で起こるべくして起こった災害といえるのではないのでしょうか。

国土交通省によると、土石流危険渓流(以下「危険渓流」という)は、現在、全国で89,518箇所とされていますが、これは、人家が5戸以上の場合で、1~4戸(73,390箇所)、新規の住宅立地などが見込まれる渓流(20,955箇所)を加えると183,863箇所になるとしています。⑥も、すべてを含めると330,156箇所になるとしています。砂防ダム1基に数億円かかるともいわれますが、危険渓流や急傾斜地のすべてを整備するには、国家予算の数倍にも及ぶ莫大な費用と長年月を要することは明らかです。④、⑥は、すでに破綻している、とまではいなくても先の見えない状態にあることは間違いないでしょう。

平成11年の広島災害を契機として制定された「土砂災害防止法」は、④、⑥のように、土砂災害の原因となる土砂移動現象の防止を目的とした工事を中心とするハード対策ではなく、土砂災害の恐れのある危険な区域への立地抑制策が大きな柱となっています。河川局は、「20世紀最後の法律として意義深いものがある」としていますが、もともと土砂災害の増加は、本来、自然の領域であったところに人が住むようになったことが最大の要因であること、加えて④、⑥が、先の見えない状態にあることを考えれば当然の帰結でしょう。遅まきながらというか、ようやくというか、“やっと本来の対策に到達した”という感じがします。もっと早くできていたら水俣の災害も起こらずに済んだかもしれません。

2002年夏は、世界各地で洪水被害が発生、2003年に入ってから、異常多雨、異常高温など、多数の死者を伴う深刻な被害が発生しています。国連の世界気象機関(WMO)(03年7月2日発表)は、地球温暖化を原因としたこれら異常気象が近年急増しており、今後も増加する恐れがあると警告しています。

2002年8月、エルベ川の氾濫で大打撃を受けたド

イツは、洪水後の翌月(9月)には、「洪水の影響を受ける地域では、新しいいかなる商業、居住目的の開発もしてはならない」として住宅等の新規着工を禁止しました。また、「効果的な洪水対策は、堤防ではない。我々は、堤防を取り壊し、氾濫原を回復し、この部分を草地として維持していく」(トリッテン環境相：洪水後の声明)とも述べています。自然の領域の回復です。

## II

### 歴史をシンボルとした 「大刀洗公園」がオープン

棚町 修一

(総合技術監理、建設・福岡)

平成15年9月、福岡県三井郡大刀洗町に開園した「大刀洗公園」の設計・監理に携わることができましたので、その概要を紹介します。

この公園は、4.5haの広さを持ち、公園の中央部に「大刀洗川」が流れている珍しいタイプの公園です。川の両岸にまたがる公園は、「太刀の橋」(太刀をイメージした曲線形)と「陣の橋」で結ばれています。



大刀洗川と調和した公園

たちあらい  
「大刀洗」という言葉から「大刀洗飛行場」を連想される方も多いのではないのでしょうか。大刀洗公園の周囲に飛行場がありました。この飛行場は1919年(大正8)に完成し、面積は1,500ha(46万坪)ありました。この飛行場は、昭和のはじめ国際空港として使われました。その後、航空基地となり大刀洗陸軍飛行学校が設置され、西日本に点在する飛行学

校教育隊の中核的な役割を果たしました。特攻隊基地で有名な知覧（鹿児島）も大刀洗陸軍飛行学校の分校でありました。

当時の飛行機（九七式戦闘機）が、「大刀洗平和記念館」（福岡県三輪町）に保存展示されています。



九七式戦闘機

さらに時代を遡ると、南北朝時代に朝廷方と武家方との合戦で、朝廷方の武将「菊池武光」が勝利し、その時、血まみれになった太刀を小川で洗ったことから「大刀洗」という地名がついた場所でもあります。現在、「菊池武光」の銅像（昭和12年落成）に武将の面影をしのぶことができます。以前から、この銅像の周囲には多くのサクラがあり、花見の名所として住民に親しまれてきました。



菊池武光銅像

最近では、公園の周囲に新興住宅地ができ、公園という安心して遊べる空間がこの町にも求められるようになりまして、町民の憩いの場として「大刀洗公園」が誕生することになりました。

そこで、この地域の特性を生かすために、公園設計のキーワードを「歴史」「水」「健康」「花」とし、町外の公園に行かなくても町内で子供からお年寄りまで楽しめる公園づくりを目指しました。

公園の特徴をキーワードに沿ってご紹介します。

「歴史」の象徴である菊池武光公の銅像をこの公園のシンボルと位置づけました。石畳による静寂な広場、水面に浮かび上がる銅像、夜間のライトアップ等により、これまで十分に認識されなかった大刀洗町の歴史的な部分に光をあてました。



水鏡に浮かぶ銅像



ライトアップ

「水」には様々な表情と演出効果があります。この公園では神聖な水として歴史や自然の風景を映す「水鏡」、壁泉を通じて流れ落ちる動的な水として「みずかがみ」「らくすいいけ」、木立の中の清流を楽しめる「流れ」、子供が水に触れ遊べる「ジャブジャブ池」などを設け、水との多様なふれあいを楽しめるようにしました。



水鏡



流水で遊ぶ子供たち

「健康」づくりは、町民に限らず多くの人々の共通のテーマです。この公園では、ゴムチップ舗装によるウォーキングコース、地形の起伏変化や四季の緑が歩きながら楽しめるようにシークエンス効果（歩きながら変化する風景の演出）に配慮した散策路、素足で歩き足ツボを刺激しながら健康回復・増進が図れる「健康広場」を設けています。子供にとっては遊びが何よりの健康づくりで、多様な遊びを複合し

た「こどもの砦」や「芝生広場」（約8,000㎡）を設けています。ここでは、にぎやかな子供たちの声や家族の語らいが絶えません。

「花」は人々の心を和ませてくれます。昔から親しまれてきたサクラをメインに四季折々に楽しめる花を取り入れています。また、水辺や庭園、広場などそれぞれの雰囲気に調和した花の演出も行っています。

公園が完成し、朝夕のウォーキングを楽しむ人、遊具や流れで元気にはしゃぐ子供達、芝生広場でくつろぐ家族連れなど多くの人々がこの公園を訪れ、思い思いに楽しんでいます。

公園で楽しそうに遊び、くつろいでいる姿を眺めていると、そのほのぼのとした光景に設計者としての充実感を感じます。

この公園が大刀洗町の資産として受継がれ、次代を担う子供たちの原風景として心に残り、人づくりや地域の発展に寄与することを願っています。

## 会員ニュース

### ☆(社)日本技術士会（九州支部）入会

(地区)	(区分)	(氏名)	(部門)	(上段:連絡先/下段:勤務先) (連絡先と勤務先が同じ場合、連絡先のみ)	
福岡	正会員	石田 智朗	建設	〒814-0015 福岡市早良区室見5-10-10-605 パシフィックコンサルタンツ(株)九州本社	☎(092)841-9380 FAX(092)885-5008
福岡	正会員	坂井 雅道	建設	〒814-0161 福岡市早良区飯倉4-21-32コーポ堀306号 パシフィックコンサルタンツ(株)九州本社	☎(092)801-2784 FAX(092)885-5004
佐賀	正会員	吉澤 知昭	林業	〒845-0002 佐賀県小城町大字畑田字二本九割2592-1フレグランスフクチB101 佐賀県林業試験場	☎FAX(0952)72-7659 ☎(0952)62-0054 FAX(0952)51-2013
福岡	正会員	牟田口幸生	衛生工学	〒811-2401 福岡県粕屋郡篠栗町大字高田497-3ベンタナヒルズ篠栗1-1003 (株)九電工空調技術部	☎FAX(092)948-3690 ☎(092)523-1640 FAX(092)524-3430
長崎	正会員	中村 昇	農業	〒854-0075 諫早市馬渡町11-44 長崎県諫早農村整備事務所	☎(0957)25-1714 ☎(0957)22-1320 FAX(0957)24-5324
福岡	正会員	手嶋 和男	建設	〒811-3215 福岡県宗像郡福岡町花見の里2-2-3 オリエンタル建設(株)福岡支店	☎(0940)42-4844 ☎(092)761-6934 FAX(092)741-3499
福岡	正会員	松永 昭吾	建設	〒819-1117 前原市前原西1-5-18エム・ジャルダン1301 (株)建設技術研究所九州支社	☎FAX(092)323-3813 ☎(092)714-2211 FAX(092)715-5200
福岡	正会員	小澤 孝三	建設	〒810-0041 福岡市中央区大名2-4-12 (株)建設技術研究所九州支所内	☎(092)714-2211 FAX(092)762-6266
鹿児島	正会員	福山 清和	水道	〒895-0131 川内市高江町889 川内市役所建設部下水道課	☎FAX(0996)27-2874 ☎(0996)23-5111 FAX(0996)20-5570
福岡	正会員	井上 陽夫	建設	〒818-0034 筑紫野市美しが丘南6-4-129 西鉄シーイーコンサルタント(株)	☎FAX(092)927-0421 ☎(092)511-2771 FAX(092)511-2461
福岡	正会員	佐田英一郎	建設	〒839-0862 久留米市野中町313-3 西鉄シーイーコンサルタント(株)	☎FAX(0942)43-4025 ☎(092)511-2444 FAX(092)511-2461
熊本	正会員	足立 宏美	建設	〒868-0021 人吉市鬼木町1389-5 前田建設工業(株)九州支店 加久藤南作業所	☎(0966)22-0006 ☎(0984)37-1005 FAX(0984)37-1006

熊本	正会員	山元 秀記 林	業	〒861-1104 熊本県菊池郡西合志町大字御代志1656-55 (勸林野弘済会熊本支部指定調査部)	☎(096)242-6139 ☎(096)354-2251
宮崎	正会員	岡本 泰典 建	設	〒880-0944 宮崎市江南1-23-11 (株)ロードリバーコンサルタント	☎・FAX(0985)53-5787 ☎(0985)23-2957 FAX(0985)25-5662
北九州	正会員	長野 義次 農	業	〒820-0011 飯塚市柏の森520-18 内外エンジニアリング(株)福岡支社	☎(0948)25-2993 FAX(0948)26-1493 ☎(092)431-2851 FAX(092)451-5027
長崎	正会員	原 康彦 建	設	〒850-0803 長崎市風頭町14-8 アジアエンジニアリング(株)長崎支店	☎(095)845-9493 FAX(095)845-0129
宮崎	正会員	南 靖彦 水	道	〒880-0841 宮崎市吉村町浮之城甲99-4-110号 パシフィックコンサルタンツ(株)宮崎支社	☎・FAX(0985)31-5639 ☎(0985)30-5360 FAX(0985)30-5361
宮崎	正会員	倉掛 政俊 建	設	〒880-0843 宮崎市下原町363-1 金丸マンション507号 宮崎県土木部建設技術センター	☎・FAX(0985)23-7023 ☎(0985)85-1515 FAX(0985)85-2991
宮崎	正会員	甲斐 重隆 建	設	〒880-0915 宮崎市恒久南1-9-25 宮崎県日向土木事務所椎葉駐在所	☎(0985)59-1128 ☎(0982)67-2074 FAX(0982)67-2869
福岡	正会員	牧 敦司 建	設	〒810-0014 福岡市中央区平尾4-14-27 総合技術監理(株)醇建築まちづくり研究所	☎(092)526-3595 FAX(092)531-5559 ☎(092)737-3950 FAX(092)732-7515
福岡	正会員	加賀 泰夫 建	設	〒839-0863 久留米市国分町1151-1 グレースハイツ403号 総合技術監理 大成ジオテック(株)	☎(0942)21-6356 ☎(0942)34-5622 FAX(0942)34-5631
福岡	正会員	松本 博文 建	設	〒814-0123 福岡市城南区長尾4-12-15ボンツアーII番館507号 日本工営(株)福岡支店	☎・FAX(092)801-5971 ☎(092)475-7569 FAX(092)475-4330
福岡	正会員	網野 功輔 応用理学		〒816-0807 春日市宝町1-6-1宝エクセル11-601 日本工営(株)福岡支店	☎・FAX(092)502-8663 ☎(092)475-7565 FAX(092)475-7089
福岡	正会員	箴島 聖二 応用理学		〒819-1322 福岡県糸島郡志摩町大字御床2150-42 日本工営(株)福岡支店大分営業所	☎(092)328-2686 ☎(097)540-6845 FAX(097)540-6846
福岡	正会員	神山 博志 建	設	〒811-1362 福岡市南区長住2-18-10-401 日本工営(株)福岡支店	☎(092)553-5024 ☎(092)475-7556 FAX(092)475-4330
福岡	正会員	松井 隆昌 農	業	〒819-0002 福岡市西区姪の浜3-39-1016 松井設計事務所	☎・FAX(092)881-9094 ☎(092)862-5140 FAX(092)865-2310
福岡	正会員	甲斐田照明 環	境	〒834-0085 福岡県八女郡立花町北山128 (勸九州産業衛生協会)	☎・FAX(0943)23-5738 ☎(0942)44-5000 FAX(0942)44-5516
福岡	正会員	武林 晃司 建	設	〒811-0201 福岡市東区三苦5-1-14 (株)緑景九州事務所	☎(092)607-5559 ☎(092)713-8765 FAX(092)713-8759
大分	準会員	新岡 洋二 生物工学		〒875-0023 白杵市大字江無田600-3 フンドーキン静雲寮 フンドーキン醬油(株)大分醬油協業組合	☎(090)3726-3111 ☎(0972)63-6111

## ☆九州技術士センター入会

福岡	正会員	安藤 弘俊 水	道	〒833-0031 筑後市山ノ井306-1 グリーンフォレスト302 総合技術監理 福岡市役所下水道局建設部事業調整課	☎(0942)53-0812 ☎(092)711-4519
福岡	正会員	中村 伸二 水	道	〒819-0013 福岡市西区愛宕浜1-5-2 福岡市役所下水道局施設課	☎(092)885-8938 ☎(092)711-4111
福岡	正会員	佐藤 貴美 建	設	〒811-2203 福岡県粕屋郡志免町石橋台1-14 総合技術監理(株)フジタ九州支店	☎・FAX(092)935-8604 ☎(092)411-9666 FAX(092)413-7556
福岡	準会員	衛藤 浩一 建	設	〒813-0013 福岡市東区香椎駅前3-27-2406 (株)福山コンサルタント	☎(092)663-0277 ☎(092)471-1417
福岡	正会員	松本 秀満 建	設	〒818-0062 筑紫野市針摺571-36 有限会社エムテック	☎・FAX(092)921-6873 ☎(092)921-7649
中四国	正会員	川本 敏道 建	設	〒732-0068 広島市東区牛田新町3-15-61坂元ビル201	

## ☆会員連絡先(住所)および勤務先変更

(地区) (区分) (氏名) (部門) (変更)

福岡	正会員	秋山 智光 電気電子	勤	〒811-0205 福岡市中央区天神5-7-3 福岡天神北ビル7F 富洋設計(株)	☎(092)781-0336 FAX(092)781-8357
熊本	正会員	高井 一也 化学	勤	〒860-8555 熊本市黒髪2-39-1 熊本大学知的財産創生推進本部	☎(096)342-3208 FAX(096)342-3149
長崎	正会員	大山 豪 林	業	勤: 〒850-0862 長崎市出島町2-11 (株)長崎県林業コンサルタント	☎(095)823-5077 FAX(095)828-5207

福岡	正会員	小出 剛	農 業	勤	〒830-0061 久留米市津福今町349-18久栄ビル (株)久栄総合コンサルタント	☎(0942)39-7826	FAX(0942)37-2483
福岡	正会員	水上 義喜	水 道	勤	〒810-8620 福岡市中央区天神1-8-1 福岡市土木局道路計画部自転車対策課	☎(092)711-4468	FAX(092)733-5591
福岡	正会員	北村 敬司	建 設	勤	〒851-0134 長崎市田中町585-4 扇精光(株)	☎(095)839-2111	FAX(095)839-2164
大分	正会員	加藤 正明	農 業	勤	〒870-8501 大分市大手町3-1-1 大分県農政企画課	☎(097)536-1111(内線3517)	FAX(097)532-2415
福岡	正会員	荒川 直樹	建 設	勤	〒876-0813 佐伯市長島町4-14-14 九州地方整備局佐伯河川国道事務所	☎(0972)22-1880	FAX(0972)23-2799
鹿児島	正会員	柴山 修一	建 設	勤	〒891-1204 鹿児島市花野光ヶ丘2-38-2 テクノ・マネージ(有)	☎(099)238-8050	FAX(099)238-8051
宮崎	正会員	田中 公博	建 設	連	〒880-0878 宮崎市大和町20白水会ハイムB棟-51 勤	〒883-0051 日向市向江町1-200 旭建設(株)	☎(0982)52-1234 FAX(0982)52-2100
長崎	正会員	福岡 辰義	建 設	勤	〒852-8144 長崎市女ノ都3-12-29 福岡技術士事務所	☎・FAX(095)847-2350	
宮崎	正会員	請関 誠	建 設	勤	〒824-0802 福岡県京都郡勝山町松田1671 飛鳥建設(株)九州支店新仲哀トンネル作業所	☎(0930)32-5633	FAX(0930)32-5699
鹿児島	正会員	冨永 和夫	農 業	勤	〒899-3401 鹿児島県日置郡金峰町大野3616 (株)日峰測地	☎(0993)77-2176	FAX(0993)77-1383
福岡	正会員	古賀 裕	建 設	勤	〒810-0041 福岡市中央区大名2-1-35 西部建設(株)	☎(092)771-1776	FAX(092)771-6069
鹿児島	正会員	太田 頼敏	農 業	連	〒890-0003 鹿児島市伊敷台6-18-11 勤	〒892-0816 鹿児島市山下町15-27 (株)萩原技研	☎(099)222-8700(代) FAX(099)222-6100
福岡	正会員	米田 裕樹	建 設	連	〒894-0032 鹿児島県名瀬市柳町9-38		
福岡	正会員	櫛間 幸徳	建 設	勤	〒880-0902 宮崎市大淀1-2-19 (株)総合開発工業	☎(0985)52-3313	FAX(0985)52-3314
宮崎	正会員	佐土原 馨	建 設	連	〒885-0113 都城市関之屋町6519-8		
福岡	正会員	森松 一典	建 設	連	〒814-0165 福岡市早良区田村3-23-35オアシス宗徳302号		
大分	正会員	鐘 廣喜	建 設	連	〒802-0014 北九州市小倉北区砂津2-12-12-402	☎(080)5209-9666	
福岡	正会員	植田 薫	建 設	連	〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-5-8 第一復建(株)	☎(092)431-9181	FAX(092)431-0726
大分	正会員	松岡 弘文	建 設	連	〒871-0026 中津市大字高瀬1851-2 九州地方整備局山国川河川事務所	☎(0979)24-0571	FAX(0979)24-1985
宮崎	正会員	三浦 昶	建 設	勤	〒880-0805 宮崎市橋通東2-10-1 宮崎県企業局建設課	☎(0985)26-9767	FAX(0985)26-9749
福岡	準会員	前田 良幸	建 設	連	〒818-0138 太宰府市吉松294-46		
福岡	準会員	久保田史朗	応用理学	連	〒816-0964 大野城市南ヶ丘1-1-15 (株)アイ・エヌ・エー九州支店	☎(092)595-2555	

気楽に原稿をお送り下さい

## 「声の広場」原稿募集

「技術士だより」から、技術士のみなさんの気持ちが溢れて、生き活きとした息吹がほどばしるようにしたいと思います。それで「声の広場」の原稿をお送りください。例えば、

- ①なぜ技術士になったのか。
- ②技術士になって判ったこと（よかった点、足りない点、意外だったこと。etc.）
- ③技術士としてこんな仕事をしたい。
- ④いま、仕事のうえで悩んでいること。

この他にいろいろあると思います。お気軽に書いてみてください。原稿は800～900字程度。送り先は支部事務局。FAXかE-mailで、どうぞ。

## 御協力いただいている 賛 助 会 員

……………〔福岡〕……………	日本技術開発㈱	九州建設コンサルタント㈱
日本総合コンサルタント㈱九州支店	大和コンサル㈱	西日本コンサルタント㈱
㈱建設環境研究所	アジアエン지니어リング㈱	南武コンサルタント㈱
㈱唯設計事務所	……………〔北九州〕……………	東洋測量設計㈱
日本建設コンサルタント㈱九州支店	日本航測㈱	九建設計㈱
中央開発㈱九州支社	大村技術士事務所	日進コンサルタント㈱
㈱ダイヤコンサルタント西日本支社	㈱九州設計事務所	ダイエーコンサルタント㈱
福岡支店	九和設計㈱	……………〔宮崎〕……………
日本工営㈱福岡支店	㈱押川測量設計	㈱弓場水工コンサルタント
昭和地下工業㈱	㈱都市開発コンサルタント	㈱ロードリバーコンサルタント
第一復建㈱	㈱松尾設計	㈱ケイディエム
㈱松本組	㈱酒見設計	㈱親協
㈱エスケイエンジニアリング	㈱太平設計	南日本総合コンサルタント㈱
㈱東亜コンサルタント	冷牟田設計コンサルタント㈱	㈱宮崎産業開発
㈱福山コンサルタント	山九㈱鉄鋼事業本部鉄鋼技術部	㈱西田技術開発コンサルタント
㈱東京建設コンサルタント九州支店	㈱安川電機	(有)福島測量設計調査事務所
東亜建設技術㈱	㈱中村測建事務所	九州工営㈱
精巧エンジニアリング㈱福岡支店	環境テクノス㈱	正栄技術コンサルタント㈱
東邦地下工機㈱	……………〔佐賀〕……………	㈱東九州コンサルタント
大成ジオテック㈱	㈱精工コンサルタント	(有)日豊測量設計事務所
富洋設計㈱九州支社	新九州測量設計㈱	日測コンサルタント㈱
九州建設コンサルタント㈱福岡支店	西日本総合コンサルタント㈱	㈱水理設計
㈱サンコンサル	日本建設技術㈱	㈱ダイワコンサルタント
㈱橋梁コンサルタント福岡支社	㈱九州構造設計	㈱白浜測量設計
㈱アイ・エヌ・エー九州支社	新栄地研㈱	㈱杉田測量設計コンサルタント
㈱九州地質コンサルタント	九州技術開発㈱	南興測量設計㈱
㈱タイヨー設計	……………〔長崎〕……………	㈱アップス
日鉄鉦コンサルタント㈱九州支店	大栄開発㈱	(有)カツキ技術士事務所
㈱大建	㈱実光測量設計	㈱共同技術コンサルタント
㈱エム・ケー・コンサルタント	西日本菱重興産㈱	㈱国土開発コンサルタント
㈱エス・ピー・エンジニアリング	大洋技研㈱	㈱外山測量設計コンサルタント
新地研工業㈱	㈱親和テクノ	㈱都城技建コンサルタント
㈱カミナガ	扇精光㈱	㈱宮崎まちづくり計画
㈱構造技術センター	㈱新栄設計事務所	㈱第一テクノコンサルタンツ
平和測量設計㈱	……………〔熊本〕……………	……………〔鹿児島〕……………
㈱高崎総合コンサルタント	㈱九州開発エンジニアリング	中央テクノ㈱
西日本コトラクト㈱	アジアプランニング㈱	朝日開発コンサルタンツ㈱
西鉄シーイーコンサルタント㈱	……………〔大分〕……………	㈱久永コンサルタント
町田電気管理・技術士事務所	松本技術コンサルタント㈱	コーアツ工業㈱
日本地研㈱	協同エンジニアリング㈱	大協㈱
第一設計㈱	㈱日建コンサルタント	㈱中村測量設計
九州環境技術研究所	東亜コンサルタント㈱	㈱大紀造園設計事務所
西日本技術開発㈱	九州特殊土木㈱	㈱建設技術コンサルタンツ
㈱富士ピーエス	大洋測量設計㈱	

## 第5回CPD（A部門）の集中研修

第5回集中研修を、下記の通り開催します。

日時：平成16年1月24日（土）10:00～17:00

会場：福岡商工会議所（福岡市博多区博多駅前）

研修内容と講師（CPD認定6単位）：

①有明海を巡る地域の課題〔A-6〕

荒牧軍治氏（佐賀大学副学長・都市工学）

②地域おこし・エコおよび今後の展望〔A-5〕

江口隆一氏（水俣市長）

③〔その他2名・交渉中〕

参加費：3,000円（当日徴収）

申込み：九州支部宛FAX（部門、氏名、住所、電話番号記載のこと）

なお、江口隆一水俣市長のご講演は、昨年7月26日の集中研修でお願いしてありましたが、その直前の集中豪雨激甚災害のために急遽中止し、その後は復旧業務でご多忙が重なったために、延び延びになってきていました。今回、会員のみなさまの強い要請により、実施をお願いしたものです。

また交渉中の2名のご講演が決定した後で、支部から開催案内と参加申し込み受け付けのFAX連絡をいたします。（CPD委）

## 会誌“技術士”最近の主要目次

平成15年9月号

- ・巻頭言 環境制約と化石燃料／山地憲治
- ・ミニ特集〔技術士と中小企業経営者との接点〕  
中小企業交流実行委員会の活動の実態／網倉聖紀  
技術士に係わる中小企業経営向け施策／酒井重男  
中小企業経営者が直面している要望／広川一男  
顧客要望に応える緑化技術開発と普及／丹左京  
地域における中小企業支援活動／小林努
- ・環境適合設計への新手法 QFDE／荒野喆也
- ・射出成形品の形状による反り／鈴木城
- ・耐火金庫強度の検証／渡部厚夫  
〔以下、新装版「PE」〕

技術士10・2003

- ・生涯教育と技術立国／佐々木元
- ・学生の技術者倫理教育／杉本泰治
- ・日本の若手技術者は何を考え、何をなすべきかー  
江崎玲於奈博士を招待して／時合健正ほか
- ・東北支部の活動「会員増大への提言」／今井宏信
- ・CPDが求められる背景／和作幹夫
- ・技術士第一次試験～「技術士」に向けての第一歩

技術士11・2003

- ・変化に対応できる技術士を目指そう／大沼邦彦
- ・「沈黙の春」を技術者倫理の目で読む／杉本泰治
- ・開発と自然環境の保全／森島啓司
- ・パネル討論会報告「JABEEプログラムと修習  
カリキュラムとの連携を探る」／坂本恵一
- ・米国におけるCPDの概要／和作幹雄
- ・修習技術者制度－審査指針に基づく修習の実施－

／佐藤国仁

- ・修習技術者支援実行委員会／岡野庄太郎
- ・北陸支部の活動／佐藤直衛
- ・日豪間で初の技術士資格相互承認枠組み文書署名

## 編集後記

今年最後の「技術士だより」をお届けします。

異常気象にテロ続発、何や彼やと騒がしい一年でした。世の中が変わり目に来ているのではないかも思われます。どうなることでしょうか。

変わり目といえば、われわれ技術士の世界は確実に改革の一步を踏み出した年でした。“技術者はみんな「技術士」になろう”という、いままでにはなかった前広い時代が幕開けしたのです。新しい試験制度、CPDが動きだしました。これからはたくさん「技術士」が、社会発展の中核として技術力を発揮して大活躍をすることでしょう。

この大きな流れのなかに新しい年がきます。みなさん、どうぞよいお年をお迎えください。（完戸）

発行：(株)日本技術士会九州支部

九州技術士センター

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街7-1

（シック博多駅前ビル204）

九州支部： ☎(092)432-4441

FAX(092)432-4442

E-mail：engineer@joho-fukuoka.or.jp

九州支部ホームページ URL：

http://www.joho-fukuoka.or.jp/kigyo/engineer

センター： ☎ / FAX(092)432-4443

印刷：(株)川島弘文社